

自治労栃木県本部機関紙

自治労とちぎ

発行所 自治労栃木県本部
住所 〒320-0052 宇都宮市中戸祭町 821
県労働者福祉センター 5F
TEL 028-622-6225 FAX 028-650-1025
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

第
1600
号

自治労栃木県本部 第67回定期大会 開催



団結ガンバロウ

仲間の団結と連帯を強め、
安心・安全のサービスを構築しよう！



議長を務めた目黒代議員 (左)、橋本代議員 (右)

10月19日(水)、自治労栃木県本部第67回定期大会を栃木市「岩舟文化会館(コスモスホール)」で開催しました。大会は277人の代議員(女性83人、男性194人)が集結し、第1号議案「当面の闘争方針(案)」第2号議案「2016、2017年度県本部組織強化計画の補強(案)」第3号議案「2017年度県本部諸会計予算(案)」第4号議案「自治労栃木県本部規約の一部改正(案)」第5号議案「新規加盟単組の承認について」について議論、すべての議案が可決されました。



議案は全て可決された



大会宣言を読み上げる
中野県本部青女協議長

◆新幹線の座席
座ると目の前に「ト
ランヴェール」とい
う雑誌、知ってい
ますか。あれは秀
逸。各地の駅弁紹
介、今は沢木耕太郎、過去
には伊集院静など著名作家
のエッセイ(涙したこと)、
旅情をかきたてられる記事
がいい。これを読むこと、私
の小さな幸せ。

◆世の中ずいぶんゆとりが
なくなり自分を優先させる
人が増えたように感じる。
先日参加した連合女性集会
での大学教授の言葉が印象
に残る。「他人のことに思い
をはせる。他人の痛みを自
分のことのように感じる」労
働組合に入っていることが、
弱い立場で働いている仲間
のためになるなら、それは自
分の心にとってメリット。

◆私の不幸せ。在籍する宇
都宮市職労の組織率が低下
の一途を。責任の一端は私に
もある。でもきつときっと良
識ある青年層が盛り返して
くれる。他力本願だが、私
は今置かれている立場で陰
ながら支援したい。明るい
話題も。宇都宮市の臨時非
常勤等職員の仲間の皆さん
と担当役員の努力で、新し
く組織がくられようとし
ている。応援！労働者はひ
とより団結してものを言
わねば。
(沼子)

松本委員長のあいさつ

◆えさきたかし、再選

まず、日頃から自治労運動に取り組んでくださっていること、とくに7月に行なわれた参議院議員選挙の取り組みにお礼を申し上げます。比例代表では、自治労全国の代表「えさきたかし」、県内で3774票、全国では18万4千の個人名の票をいただき、2期目の当選を果たすことができました。しかし、3774票という数は、実は自治労栃木県本部の組合員数の4分の1に過ぎません。選挙後に話をうかがうと、20代30代の組合員の中には、自民党または自民党の候補者の名前を書いたという方が相当いることがわかりました。原因は2つあるのではないのでしょうか。①私たちの労働組合、組合運動が『若い組合員にとって身近に感じられない』、ストレートに言う『自治労があまり信頼されていない』ということ。②私たちの生活と政治が密接に結びついていることについて、若い組合員に対する説明が不十分だったのではないか。これらのことを私たちは反省し、まず、あたりのまへの労働組合運動を、要求し、交渉し、良くて悪くても結果をしっかりと組合員に説明する運動を、あたりまえにまじめに取り組むこと、もう一つは、私たちの生活の身近な問題と政治とのかわりを今まで以上にいいねいに組合員に説明することを強調したいと思えます。

◆3年連続の月例給・一時金増

8月8日の人事院勧告、3年連続の引き上げ勧告は歓迎したい。しかし、月例給が708円民間の方が高いという較差

にもかかわらず、地方公務員には支給されない本府省業務調整手当を206円引き上げ、その結果、私たちに比べて実際の引き上げになる「俸給表の引上げ分」が448円にとどまったことは問題と言わざるを得ません。同時に、民間労働組合の仲間たちが春闘でかちとった賃金引上げが、労働組合のない職場の賃金に波及していくにあたって公務員賃金が果たす役割を考えれば、私たち地方公務員がブレキをかけることがあってはならない。そういう意味で、今年の賃金確定闘争は、708円相当の引上げをしっかりと求めてまいりましょう。

◆人事評価制度の目的は人材育成

4月には地方公務員法が改正(というよりは改悪)施行され、人事評価が自治体の義務とされました。どういう人を8号昇給にしようという人を4号昇給にするかは、まさに賃金であり、労使交渉事項であることは、総務省も認めることです。結果として何人が8号や6号になるのかということ抜きにして賃金交渉にはならないこともまた、自明であります。来年に向け昇給、勤勉手当の見直しを検討している自治体や公共民間職場も多いかと思いますが、「労使交渉、労使合意」が見直しの前提であるという、あたり前の立場で、当局・使用者と交渉していく必要があります。

◆宇都宮市長選、金子とおるさん推薦

自治労栃木県本部は、11月20日投票と



挨拶する松本執行委員長

言われる宇都宮市長選挙には、LRTをやめてそのお金で福祉、医療、教育を充実する「金子とおる」さんの推薦を決定しました。県内ほとんどの単組に、宇都宮在住の組合員はいらっしゃると思いますし、そうでない方も宇都宮にお友だちがお住まいだと思えます。「金子とおる」さんと一声をお願いいたします。

◆衆院選勝利に向けて

衆議院の解散総選挙もマスコミをにぎわしています。早ければ11月解散年内総選挙ということもささやかれています。1区柏倉ゆうじ、2区自治労栃木の組織内で現職の福田あきお、4区藤岡たかお、そして3区5区にも候補者をたてる努力がされていますが、人事院や政府の霞ヶ関偏重、地方軽視をやめさせるためにも、民進党をはじめとし私たちが連携できる議員を増やしていきたいでしょう。

代議員のみなさまの真摯な討論によって、間違いのない方針が確立され、成果のあがる大会になりますようお願い申し上げます。ともにがんばりましょう。

【大会発言】

◇経過報告に対する発言◇

◆佐野市民病院労組 長沢代議員



今年5月27日、佐野市協力議員より「佐野市民病院民間譲渡」の連絡を受け、28日には下野新聞にその記事が掲載。新聞報道当日、健福評の学習会・幹事会があり、そこで次のことを確認し実行していくこととなった。

- ①病院当局に対して、新聞報道の確認
- ②佐野市に対して、議員に説明したときの資料の請求
- ③質問状の提出
- ④市民病院労組の組織強化
- ⑤できることから動く

- 1. どのよう理由で民間譲渡が医療サービスの向上につながるのか。
- 2. 民間譲渡した場合の職員の雇用はどうなるのか。

- 1. 民間のスピーディーで柔軟な経営方針により質の向上が図れる。
- 2. そのまま雇用を続ける。

この間組織強化のほうは、あまり芳しくはない。思った以上に組合員の反応が鈍い。佐野市民病院管理課に進捗状況を聞いてはいるが、情報が出てこない。そんな中、10月14日に行われた政策審議会を傍聴。3名の委員から「なぜ民間譲渡なのか、今までの説明、資料からは民間にすればうまくいくことがわからない」という意見が出された。佐野市は今年中に一定の結論を出すようだ。真摯な議論も無く、結論に導かれていく様子を呈してきた。県本部の役員の皆様、また、ここにお集まりの皆様方の支援をお願いする。

◆下野市職労 山家代議員

自治労栃木県本部の健康福祉評議会保育部会として報告する。

全国の保育現場は、益々労働条件が厳しくなってきた。と、保育士全国集會に参加し実感した。下野市でも民営化の動きが進んでおり、保育の質、共サービスのあり方を今こそ考える時期に来ている。

5月に2年ぶりとなる保育士交流集會を行い、50人以上が参加。集會アンケート結果を一部紹介する。

・各自治体の保育士の状況を知り比較することで、自分の置かれていた状況を振り返ることができた。

・民営化、保育士不足、保育ニーズの多様化など改めて考えさせられた。栃木県の子どもたちのため、積極的に取り組みたい。
・今まで組合活動について身近に感じていなかったが、今回を通じて組合活動の必要性を実感。
継続は力なりの言葉のどおり、これからは集會を継続していきたい。

各単組の皆様へお願いする。保育士の声を今まで以上に聞いていただきたい。
県本部5役の皆様にも保育現場の声を上げ、中央に届けられることを願います。

◆鹿沼市職労 瓦井代議員

まずは、鹿沼市長選挙への県本部の、そして県内各単組の皆様の支援に感謝申し上げる。圧倒的大差で佐藤市長が3選を果たすことができた。参院選では「えさきたかし」の獲得票数は、組合員数560人に対し693票。この票を出すために、機関紙、集會等で周知、そして何より4役が組合員に直接声をかけ、時には嫌な思いもしながらやり切った。組合員、OB宅への家庭オルグ、電話かけも実施。特に、4役が組合員に直接えさきたの支持を訴えたことは、組織強化の観点からも有効であった。この取り組みを、年内にも予想される衆議院選、さらには3年後の参議院選につなげ、組合員とその家族への支持拡大という高い目標を掲げたい。

組合活動と政治活動は車の車輪。私たちの賃金・労働条件を守るには、政治の力が必要であることは言うまでもない。私たちも政治活動の重要性を理解してもらって運動を継続する。県本部からも再度の周知、そして支援をお願いしたい。

◆真岡市職労 亀山代議員

県本部現業評議会は10月15日に中央委員会にあたる評議集會を開催し全ての議案が承認された。2016現業・公営企業・公共民間統一闘争をたたかい抜き、公企や我々よりさらに厳しいたたかいを強いられいる公共民間、さらには全国一般の仲間と問題を共有し、この後に続く、確定闘争、来年の春闘へと継続する。

喫緊の取り組みとして、10月22日に「現業・公企・公共民間統一闘争決起集會」を鹿沼市において開催する。基本組織からも責任ある参加をお願いしたい。

◆新小山市市民病院労組 富井代議員

現在病院職場は大変な局面をむかえている。消費税10%の延期で、医療を支える財源が増えず、2018年医療・介護同時改定では医療に對しさらなるマイナス改定が予測される。民間では救急や小児医療など不採算部門をカットするところも出てくる。しかし、私たち公立病院では市民の命を守るため、不採算部門をかかえずつ病院を支えていかなくてはならない。公立病院改革プログラムや地域医療構想が策定され、そこで働く労働者はさらなる厳しい環境におかれるだろう。私たちは雇用を守るべく、病院間の連携をさらに密にしていきたい。引き続き、県本部には公立病院改革プログラムや地域医療構想の勉強会も含め、ご支援・ご協力をお願いしたい。

◆新小山市市民病院労組 長谷部代議員

1月病院移転で今までの働き方が大きく変化する中、2月に病院当局から大幅な労働条件の変更が示された。勤務時間の延長：7時間45分から8時間へ、夏休みの減少、7対1看護確保のため火、水、木の祝日を勤務日という内容。当局説明後の執行委員会で、全面白紙撤回を求めたたか意思を確認。4月1日の労働時間変更を求めた当局は、何とか実施すべくかなり高圧的、感情的だったが、粘り強く交渉を重ねた結果、労働条件変更を本年度は実施しないという継続事項となった。この交渉により病院との労使関係は悪化し、今なおその影響を引きづっている。しかし、私たちは団結し交渉することにより、労働条件変更をさせないという結果を残せた。今後は団結力を強化すべく、組織率アップ、組合員をより組合に結集させがねば。県本部の強力な支援、小山市職労のバックアップをお願いする。

◆全国一般栃木 神山代議員

春闘では、全国一般の支部数が16あるうち要求書を出したのは7支部。なぜ出せないのか。組合員が1人2人の支部では青息吐息、中小というよりは零細の職場が多い。要求書を提出すると逆提案される。心配しながら日々そこで働く労働者がたくさんいる。日本の労働者全体を見ると同じようではないか。要求書が出せるのは日本全体で10%、そこが問題。労働組合が社会から認知されるというまでにはいらない、日本の労働運動は進まないと思う。中小・零細の組織化に取り組んでいる。いざ組織化すればすぐ争議になりかねない職場が圧倒的。今後とも組織化に對し県本部の支援をお願いしたい。

◆宇都宮市職労 広田代議員

①人事管理制度について
9月1日中央委員会、全職員の勤勉手当と管理職の昇給への成績率反映、組合員の昇給への反映については継続協議を容認。昨年7月から「人材育成と士気の向上」「差別・区別をするものではない」など当局と勉強会、意見交換会を実施。交渉4回、協議も続けてきた。引き続き交渉行動を進めていきたい。
②秋闘について
10月13日に県人事委員会から勧告が出されたが、県内自治体の処遇改善のため県職労が人事委員会との交渉等奮闘している、仲間たちがどのように踏ん張っている姿が、組合員にはなかなか見えない。きちんと組合員に情報を流しながら宇職労は取り組んでいきたい。

連合・自治労は宇都宮市長選
11月13日(日) 告示
11月20日(日) 投開票
金子とおるさんを推薦します

【プロフィール】



1957年
(昭和32年)
生まれ

(現職)

金子耳鼻咽喉科クリニック 院長
 宇都宮市医師会 副会長
 栃木県医師会 理事

「しりて」よりも
教育・医療・福祉!
市民にやさしい
イキイキうつのみや

◆議案に対する発言◆



◆新小山市民病院労組 富井代議員

①地域医療構
想に対し県本
部はどう対応し
ていく考えか

②「地域医療介護総合確保基金」を自治労本部では人材確保・育成に活用するように言っている。栃木県では基金の活用が他県に比べ少なく、さらに人材確保・育成に対する活用も少ないのが現状。県本部は今後どう指導を行っていくのか。

③地域医療構想について、公立病院改革プログラムは各自自治体で作成するため、佐野市では「民間譲渡」といった状況が生まれる。自治体と病院職場がうまく連携が取れるような指導をお願いしたい。

◆鹿沼市職労 本田代議員



次代の担い手育成は、どの単組でも苦慮しているのではないかと。役員が組合員に直接話しかけることで組合員とのコミュニケーションを図る。そうすることで、次代の担い手を発掘することができるのでは。何より組織強化につながる。そのような運動の成果もあり、鹿沼市職労では、向こう10年は役員の担い手の心配はない。しかし、若手の知識不足は否めず、他単組の取り組みなどを吸収し参考にしたいと常々思っている。そのような中、今回の当面の闘争方針案の「次代の担い手を育成するためのセミナー」の開催には期待をする。他単組の若手役員と交流できる場があると、情報交換等今後の活動に生かせ、それが組織強化につながる。と考える。

次に、書記次長を若干名に変更する提案だが、市職労の経験からも、人数にある程度の幅を持たせることは有効である。経験則上からも今回の規約の改正は有効であると考え。

2016県本部機関紙コンクール

「駿馬」
(那須塩原市職労公益評) **が最優秀賞に**



最優秀賞に選ばれた那須塩原市職労公益評

今年も機関紙コンクールを行い、9単組31誌の応募がありました。その中から「駿馬」が最優秀賞に輝きました。

最優秀賞の理由

隅健一議長

多くの組合員が目につけて、その広報新聞が嫌にならない、また見てみようかなと思ってもらえるような紙面づくりをした結果の受賞ではないかと思う。私ひとりではなく、組合員全員で作り上げた賞。

[最優秀賞]

◇駿馬
(那須塩原市職員労働組合公益法人評議会)

[優秀賞]

◇なんたい
(栃木県国民健康保険団体連合会職員労働組合)

◇自治労とちぎ県職労版
(栃木県職員労働組合)

[努力賞]

◇新青紀
(足利市職員労働組合青年部)

◇鹿職労ニュース
(鹿沼市職員労働組合)

◇群青の音
(那須塩原市職員労働組合青年部)

◇塩谷町職労だより
(塩谷町職員労働組合)

[新人賞]

◇つばさ
(小山市職員労働組合)

[特別賞]

◇週刊宇都宮市職労
(宇都宮市職員労働組合)